

平成 29 年度「みんなの幸せづくりをすすめる研究会」第 1 回オープンミーティング 報告書（平成 29 年 6 月 19 日）

場所	茨城県総合福祉会館	参加社協	土浦、龍ヶ崎、常総、常陸太田、笠間、取手、鹿嶋、那珂、小美玉、牛久、下妻	参加人数	30名			
役割	発表者（那珂市）社協（浅野）氏 ワークサポート（常陸太田市）社協（多賀谷）氏・（菊池）氏 記録者（笠間市）社協（片岡）氏（県）社協（阿久津）							
研究課題・テーマ	（今回の発表事例が選ばれた経緯） 多様化する地域課題に対し、住民自らそれを把握し、自分の問題として解決に取り組むこと、そして、市町村社協職員はそれらを意識して支援することは、これからの地域づくりにより必要になってくる。 そこで、数ある地域（住民）への働きかけの手法の中から、氷見市社協が開発し、那珂市社協がアレンジした「タイムトラベルワーク」（参加者自身が地域の実情を知る演習）を体験し、地域福祉課題を我が事ととらえるための可視化手法を習得することとした。							
取り組み事例の概要	☆タイムトラベルワークとその展開例 参加者自身が地域の実情を知るため、富山県氷見市社会福祉協議会の開発した「タイムトラベルボード」を、那珂市社協がアレンジしたもの。1グループ5人程度のGW 1. 現在のご近所の状況をワークシートに落とす。 2. 別なワークシートに10～15年程度の未来を想像しご近所の変化の状況を落とす。 ※氷見市の紹介事例では20年後の未来を想像。那珂市では対象地域に合わせて年数を変える。 3. 自己紹介・役割（司会・記録・発表者）の決定 4. 第1段階【現在のご近所①】現在自分が暮らしている家の両隣（或いは近所）の状況を、シール（※1）を使ってワークシート（※2）に落とし込む。 5. 第2段階【現在のご近所②】自分の近所の状況を簡単に説明する。 6. 第3段階【10年後の未来（想像）①】現在の状況を参考に、10年後の未来を想定して別のワークシートを張る。 7. 第4段階【10年後の未来（想像）②】未来を想像してみて「感じたこと」を一人ずつ説明する。全員が説明し終わったら、10年後の未来について自由に意見交換する。						発表内容	（所属社協で実践するにあたっての課題・意見）※出された共通のキーワード 人集め 多世代（特に若い世代）への働きかけや、自治会役員などの役割のない人へのアプローチ、広報の工夫など。 実施規模の吟味 狭い規模だと課題が見えやすく、広くなると課題を共有しにくい。 働きかけ方・運営の仕方 ファシリテーター役のスキルの向上、参加者にやらされている感覚を覚えさせない、社協が答を用意しないなど。 やりっ放しにしない 出された意見は分析をし、フィードバックする。ワークを実施したところへのフォローアップを想定しておく。 「動ける」社協職員!!! とにかく外（地域）に出る、顔を出す。地域で「明るい未来を語れる」関係づくりをする。
ワークの目的・進め方	<ねらい> 現在・未来をイメージするワークショップを体験し、地域課題の可視化手法を学ぶとともに、自社協における実践についての課題等を検討する。 <準備物> ペンセット・ポストイット（7.5×7.5cm）・模造紙・ワークシート等 <進め方> ※グループあたり5名程度にグループ分けをする。 1. 事例説明 ⇒ 2. 自己紹介・係決め ⇒ 3. 第1段階：現在のご近所の状況整理（個人ワーク） ⇒ 4. 第2段階：3の説明（グループワーク） ⇒ 5. 第3段階3の10年後の未来想定（個人ワーク） ⇒ 6. 第4段階：5の説明（グループワーク） ⇒ 7. タイムトラベルワーク展開の実際（那珂市の事例） ⇒ 8. アドバイザーコメント ⇒ 9. 自社協の1地区を想定し、タイムトラベルワークを進める流れを検討（個人ワーク） ⇒ 10. 9の共有と、課題や疑問についての意見交換及びまとめ（グループワーク） ⇒ 11. グループ発表 ⇒ 12. アドバイザーコメント ※詳細は別添参照						アドバイザーからのコメント	・「現状」は未来によって変わる。そして、自分とその周りを見つめることで「我が事」＝「みんなのこと」であること、今回はそれを気づかせるワークショップである。ただし、未来のことを一緒にたにせず、それはまた別の方法で整理する必要がある（長谷川アドバイザー） ・未来から現状を見ると…「超高齢社会の到来」、「社会構造の大転換」、「二極分化の進行（経済格差）」など、多様化する課題を10年後にはロボットが対応する時代が来るかもしれない。そんな時代になるまでに先を見据え社協は何をしていくのか、が共通課題となる（外岡アドバイザー）
							事例発表者からのコメント	・今回の手法は、地域の課題を把握している役員以外の住民にも有効な手段です。これまで、支部社協をはじめとする既存地域組織への働きかけは行われてきましたが、今後はより小さな範囲への働きかけが必要と思われます。そのために、1つの社協だけが努力するだけでなく、県内社協が助け合いながら手法について検討していければと思います。

